

【キーワード：集落営農組織の法人化、省力低コスト化、水稲直播】

地域を担う集落営農法人の設立と経営の安定化

【置賜総合支庁農業技術普及課】

- ◆課題名 土地利用型生産組織「ファームおそのづか」の収益性向上
- ◆活動の対象 ファームおそのづか（20年度特定農業団体、21年度株式会社）
- ◆実施年度 平成20～21年度

◆ねらい 継続的経営発展

水田経営所得安定対策の新たな政策の下設立された集落営農組織を、地域の担い手として継続的に経営を発展させていくため、先進的モデルとして支援を行う。

集落営農のスケールメリットを生かし、省力化・低コスト化や集落の労働力を生かした新たな作物の導入等により収益性を上げ、構成員の所得確保、地域への資金還元等を図っていく必要がある。

法人化

そのため、以下の課題を解決していくことをねらいとする。

収量・品質向上 園芸作物の導入

・法人設立に向けた集落の合意・補助事業資産の引継ぎ・経営の柱となる水稲、大豆の収量、品質向上・集落の労働力を活用できる夏、冬期間の園芸作物の導入

◆活動の成果

農業生産法人設立

1. 株式会社ファームおそのづか設立
平成21年3月3日、5名の株主により設立

売上、構成員の所得 目標達成

2. 売上等の目標対比 108%
構成員所得の目標対比 124%
3. 水稲収量品質 576kg・1等米 96%
大豆収量品質 171kg・2等級以上 7%
(水稲、大豆とも2カ年平均)
4. せいさい 0.17ha、啓翁桜 0.75ha



【小其塚集落営農組合員】

◆活動の経過

法人化

運営支援

1. 法人化及び法人運営、労働力確保支援
 - ・法人化へ向けて構成員を対象に、研修会を開催。
 - ・外部コンサルタントを活用し、補助事業資産の引継ぎ、労務管理、経営計画について支援。

出役体制の整備

- ・集落営農の優良法人への視察。
- ・小其塚集落営農組合から計画的に出役が得られるように体制作り支援。
- ・取締役会の運営支援。

水稲直播技術

2. 水稲、大豆の収量確保支援
 - ・水稲の追肥、水管理を中心に、管理作業を委託する小其塚集落営農組合員を対象に講習会等で技術支援。
 - ・水稲の規模拡大に向けて、水稲直播技術、ほ場管理、新農薬展示ほ等を設置して支援。

大豆播種技術

- ・大豆については、湿害対策として播種技術、雑草防除対策を中心に支援。

園芸作物導入検討

3. 園芸作物導入支援
 - ・冬期の収入源の柱として期待している啓翁桜の栽培管理、防除指導等を花木部会と連携して支援。補助事業により促成ハウスを導入。
 - ・せいさいは、播種方法の検討を行い、播種、間引きの労働時間の大幅削減に取り

組み、規模拡大の可能性を検討。

販売チャネル増加

4. 直販、加工部門の検討

- ・近所にできたスーパーマーケットへ米を卸すことができるようになり、パッケージ等の検討、支援。
- ・生産した米、大豆を使って、味噌加工の試作を支援。
- ・加工に取り組んでいる集落営農組織を視察し、加工部門の取組を支援。

味噌試作加工

◆今後の展開

経営計画見直し

1. 経営計画を取締役会で随時見直しと実践を繰り返すことができるように、体制整備を進める。

直販拡大、加工部門導入

2. 加工部門導入にあたり、施設、販路の検討を行う。加工品、啓翁桜等、米以外の販売アイテムを増やし、直販の顧客拡大方策を検討する。

後継者育成

3. 社会保険制度を充実させ、後継者の育成を行なう。



【直播・移植汎用田植機での直播】

◆協力機関

J A山形おきたま高島経済支店、高島町農林課、米沢平野土地改良区